

特集：私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて

私の教育システム情報学マップ…を作るに至るまでの話

東本 崇仁*

The Story of How I Create My Map for Information and Systems in Education

Takahito TOMOTO*

In this paper, I explain the process of creating my map for Information and Systems in Education. First, I will describe the maps of the relevant academic societies that I am involved in. Next, based on these maps, I will explain how I view Information and Systems in Education and how I thought the map should be constructed. Finally, I will introduce a map for Information and Systems in Education that I constructed.

キーワード：教育システム情報学マップ, JSiSE 編集委員会, JSiSE 全国大会プログラム部会, AI マップ, JSAI 編集委員

1. はじめに

教育システム情報学会（JSiSE）では、50周年事業の一貫として、JSiSEで扱われるリサーチクエスションの蓄積と体系化をめざした教育システム情報学のマップの作成を行うプロジェクトが始動されている。そのプロジェクトの手始めとして、まずは若手・中堅の研究者の数名で、「私の教育システム情報学マップ」を考えて、解説を執筆してみようということになり、私、東本に白羽の矢が立った。その理由としては、現在教育システム情報学会全国大会のプログラム部会の副会長であり、教育システム情報学会の編集委員であり、過去に人工知能学会のAIマップに（ささやかながらも）関与しており、現人工知能学会の論文誌編集委員でもある⁽¹⁾、とのことである。また、ほかにJSiSEの産学連携委員会の幹事かつLIGP（Learning Innovation Grand Prix）の実行委員であり、ICCE（International Conference on Computers in Education）

のワークショップのChairなども務めている（最近、やけに時間が足りないと感じていたが仕事を引き受けすぎではないだろうかと感じる）。

そこで、「私の教育システム情報学マップ」を記述するにあたり、まずは関連する領域におけるマップに関わる話を紹介したい。

2. マップに関連するトピック

2.1 現会長の巻頭言

本プロジェクトはJSiSEのプロジェクトであるが、まずは現会長である柏原会長の過去の巻頭言より関連する話題を抽出する。

柏原現会長は、過去2009年の巻頭言⁽²⁾において、学会をオンライン・ソーシャルネットワークとすることを記述されている。そのなかで、学会のことを「研究者・教育関係者を主なメンバーとするソーシャルネットワークを構成するコミュニティ」としており、

*東京工芸大学（Tokyo Polytechnic University）